

平成28年度 第2回

# 中野市総合教育会議 会議録

中野市・中野市教育委員会

○ 開催日時 平成29年2月27日（月）午後3時～午後4時20分

○ 開催場所 中央公民館講堂

○ 議事日程

1 開会

2 あいさつ

市長、教育委員長

3 議題

(1) 中野市小学校統合準備委員会について

(2) 中野市教育大綱の進捗状況について

・外国語教育の推進について

(3) その他

4 閉会

○ 出席者

1 構成員

|            |       |
|------------|-------|
| 市長         | 池田 茂  |
| 教育委員長      | 長島 克己 |
| 教育委員長職務代理者 | 青木 幸子 |
| 教育委員       | 市川 真一 |
| 教育委員       | 永江 文樹 |
| 教育長        | 小嶋 隆徳 |

2 意見聴取者及び説明者

|             |        |
|-------------|--------|
| 副市長         | 横田 清一  |
| 総務部長        | 竹内 幸夫  |
| 教育次長        | 石川 保文  |
| 学校教育課長      | 小林 由美  |
| 学校教育課学校教育係長 | 宮嶋 香代子 |
| 学校教育課総務係長   | 富田 訓宏  |
| 学校教育課副主幹    | 田中 千尋  |

## 《開会》（15：00）

（石川教育次長）

それでは定刻となりましたので、ただ今から、平成 28 年度第 2 回中野市総合教育会議を開催いたします。議事に入るまでの間、進行を務めさせていただきます、教育次長の石川です。よろしくお願いいたします。なお、本日の会議は、運営要領第 4 条に基づきまして公開となっておりますので、ご了承をお願いしたいと思います。

それではお手元の次第に沿いまして進行させていただきます。

はじめに、会議を主宰する池田市長からあいさつ申し上げます。

## 《市長あいさつ》

（池田市長）

会議の開催にあたり、一言、あいさつ申し上げます。

本日は、平成 28 年度 第 2 回中野市総合教育会議を開催したところ、教育委員長並びに委員の皆様には、お忙しい中ご出席いただき、誠にありがとうございます。

また、日頃から中野市の教育行政の推進に対し、多大なるご尽力をいただいておりますことに、改めて御礼を申し上げます。

さて、今月 21 日に、来年度の予算を公表いたしました。

教育関係では、新規の事業も盛り込んでおります。時代に対応した教育環境を整えることが大切であると考えています。

また、中野市教育大綱の中でもお示ししておりますが、「未来を切り拓くたくましい子ども」をどう育てるか。これは教育委員の皆様と私が一緒になって考えていく課題であるとも思っておりますので、今後もより一層の連携をお願いし、あいさつとさせていただきます。

（石川教育次長）

ありがとうございました。

続きまして、長島教育委員長からごあいさつをお願いいたします。

## 《教育委員長あいさつ》

（長島教育委員長）

第 2 回中野市総合教育会議の開催にあたり、教育委員会を代表しまして、ひと言ごあいさつ申し上げます。

日ごろから、池田市長さんをはじめ、市の関係者の皆さまには、中野市の教育行政の発展のため、多大なご支援、ご協力をいただいておりますことに、深く感謝申し上げます。

この「総合教育会議」は法改正により昨年からはじまったわけですが、教育のどの施策をとっても、市行政と連携なしには成り立ちません。そういった意味でも、本日の会議は大

変有意義なものと思っております。

さて、先月1月31日に、第1回目となる中野市小学校統合準備委員会を開催し、いよいよ統合に向かってスタートいたしました。

教育委員会といたしましても、統合準備委員会でのご意見を出来るだけ尊重し、ひとつずつ課題を解決していく予定でございますが、市長さんにおかれましても私共と一緒に考えていただき、今後とも格別なご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

本日は、どうぞよろしくお願いたします。

(石川教育次長)

ありがとうございました。

本日は出席構成員の他、副市長、総務部長並びに事務局の関係する職員が出席しております。出席者につきましてはお手元の名簿のとおりでございますのでよろしくお願致します。なお会議の運営につきましては、中野市総合教育会運営要領に基づきまして、進めて参りますのでお願したいと思ひます。

それでは次第に沿いまして、3番の議題に入りたいと思ひますが、以後、進行につきましては、池田市長にお願したいと思ひます。

(池田市長)

それでは進行につきまして私のほうで務めさせていただきますので、どうぞよろしくお願いたします。以下着座にて失礼いたします。

#### 《議題 (1) 中野市立小学校統合準備委員会について》

(池田市長)

それでは、議題の(1) 中野市立小学校統合準備委員会につきまして、これを議題といたします。事務局より説明をお願致します。

(小林学校教育課長)

それではお願致します。

議題(1) 中野市小学校統合準備委員会についてでありますがお配りしております資料と第1回統合準備委員会の開催状況の報告を合わせて説明をさせていただきます。

資料3ページからになります。資料1 中野市小学校統合準備委員会について、まず4ページから5ページにかけては北部地区小学校統合準備委員会設置要綱、6ページから7ページにかけては豊田地域の小学校統合準備委員会の設置要綱を載せてございます。昨年9月に開催されました前回の総合教育会議において、中野市小学校及び中学校等適正規模の基本方針が決定され以降、統合準備委員会の設置に向けて準備を進めて参りました。北部地区の統合校の開校日が平成32年4月、豊田地域の統合校の開校日が平成33年4月であることから北部地区と豊田地域それぞれに統合準備委員会を設置することとし、要綱の施行日を平成28年12月1日としたものでございます。要綱施行日以降、準備委員会

の委員の人選に入ったわけですが、関係する学校からの意見を参考にして学校評議員、区長会、保護者、地域の方など学校と関わりの多い方に委員をお引き受けいただきました。それを受けまして、1月31日に第1回統合準備委員会を北部地区と豊田地域合同会ということで全教育委員も出席し開催いたしました。そこからいよいよ統合に向けてスタートしたわけでございます。当日ですが、準備委員会の委員長の選出を行った後、準備委員会の運営方法、スケジュールの確認などをさせていただきました。あわせて専門部会の構成員や専門部会長の指名なども行いました。北部地区統合準備委員会の委員長には平岡小学校の下川校長先生、豊田地域統合準備委員会の委員長には永田小学校の今井校長先生が選出されております。

続きまして8、9ページをお願い致します。こちらについては、統合準備委員会の運営要領を載せてございます。課題が多岐にわたることから「総合部会」「地域PTA部会」、「通学安全部会」「教育部会」という4つの専門部会を設置して、概ね月一回程度の日程で協議をして参ります。今後開催される統合準備委員会や専門部会の会議の資料については出来るだけ市民の皆様へ情報をお伝えしていく予定でございます。

別件資料をいうことで、第1回統合準備委員会の専門部会でも出された意見の内容があるかと思いますが、こちらをご覧ください。これは1月31日に開催した統合準備委員会の後に専門部会を開催したわけですが、意見の大まかなものをまとめたものです。見ていただくと分かるのですが、全体の共通事項として当日の会議ではしっかりと協議したいので、どんな問題について話し合うのか事前に示してほしい。また、資料も事前に送って欲しい。該当する学校の組織表など比較するものがほしい。パブリックコメントなど、どんな意見が出たのか知りたいなど、非常に積極的に考えて下さる委員の方がいらっしゃると思います。また、放課後児童クラブやコミュニティスクール、育成会、市としての方針を聞かせてほしい。後でひっくり返されても困るといったようなご意見や、どの範囲までスクールバスが出るのかといったような具体的な内容も出てきております。ただ、豊田地域に関しては、統合する場所について疑問視される方々がまだまだ多く、ご不安を抱えている方が多いのかなという印象です。専門部会での協議、その後の統合準備委員会の代表者会議での協議、そして教育委員会という段階を経ていくわけですが、総合教育会議の中でも大事なことは議していただくことになろうかと思いますが、今後も随時、ご報告ご説明していく予定でございます。説明は以上でございます。

(池田市長)

それでは今、説明がございましたけれども、早速ですが、本日お集まりの委員の皆様から、忌憚のないご意見をお願いしたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い致します。

(小嶋教育長)

今、第1回統合準備委員会、専門部会でのお話も事務局から説明があったわけですが、4つの専門部会それぞれ関係していることが結構ありますので、それぞれのところでこれから月1回で会合をもっていくわけですが、具体的により良いものになっていくのではな

いか、そうあってほしいというふうに願っています。

豊田地域では色々なご意見、場所のこともあるというようなお話もあったわけですが、教育委員会として長い間検討し、やってきた経緯のなかで、豊田中学校の位置で統合の校舎をそこへもっていくということを前提で教育委員は今まで検討してきました。準備委員会でも色々あるかと思いますが、ご意見を出してより良いものにしていくうえでご理解を得ていただけるのではないかと考えています。

(池田市長)

教育長から意見がありました。続いてご意見ありますか。

(青木教育委員長職務代理者)

今、教育長がおっしゃったように、豊田地域の方々にも基本方針をご理解いただいて進めていけばいいのではないかと思います。

(市川教育委員)

統合準備委員会が始まりましたけれども、この場においても色々な意見を持たれていません。絶対に全員一致というわけにはいかない話でございます。特に豊田地域におきましては、難儀していることも、うかがえる次第ですけれども、北部地区では意見がまとまっている感じも見受けられました。早くも委員の皆様が、次の展開を目指している意気込みを話のはしばしで感じています。豊田においては北部地区よりも1年先ということで、時間がございますが、その間にぜひご理解をいただき、なぜ豊田中を中心として新展開を目指すのかというところを地域の皆様方によくご理解をいただきまして、すべての条件を叶えたうえで、計画にご賛同いただくように我々教育委員も一致した思いでございます。色々な見方はあると思いますが、勇気を持って1つの決断に向かって力を合わせて進んでいくことはより良い方向を見いだせるものと思っておりますのでお願いします。

(永江教育委員)

一番いいのは新しい場所に新しい校舎を作るのが一番いいのだと思うのですが、時間的な面、豊田地域は傾斜地のところにあれだけの学校の敷地を確保するのは非常に難しい。豊田中学校ですら作る時に削って作ったのだけれど、今になれば狭いというような場所しかない。永田小学校まで行けば広いのだけれど、あそこまで、一番南側の上今井の子ども達に来いというのは理不尽な話である。逆に永田地区の一番北の信濃町に近い方の子ども達に豊井小学校まで行くというのも無理がある気がする。教育委員会が練ってきた中間の豊田中学校におさめるのがいいのではないかとこのように思っております。豊田地域は中野の北部もそうですが子どもの数が激減しています。統合すると、小学校がなくなれば益々人が集まらなくなる。こういう意見があることも知っています。ただ、それは逆ではないかなと、学校があつたら人口が増えるのか。それは違うと思う。人口が増えてきたから学校を作る、その辺の順番を間違えてはいけないなと思っている。学校がないとさびれてし

まうように思うのですけど、場所的なこともそうだが地域の人達に理解してもらうのが大事なことだと思っています。

(長島教育委員長)

委員の皆さんから出た意見と同じなのですが、北部地区においては概ね前向きな意見が多かったが、豊田地域に関しては場所の問題等色々出されたということで、今の豊田中学校という案を出したのも過去の豊井小、永田小をつくる時、今の豊田中学校の場所に決めた時、色々お聞きしているなかで今の豊田中学校の場所に持ってくるのが最適ではないかということで協議して決めたことですので、なかには受け入れられないという人もいらっしゃるわけですが、北部地区に比べて1年間の余裕があるのでそのなかで丁寧に説明してご理解いただいて基本方針のとおりに進めていければと思います。

(池田市長)

全体をとおしてありますでしょうか。

スクールバスの問題、工夫をする問題とつくる問題、想像するクリエイティブなところとテクニカルにやるところがあって、思うように進まない。どういった施設をつくりあげて、子ども達にとってどれだけいい教育環境を作ってあげられるのかということをもまず考えていくことが重要なのではないかと。これだけの小学校の統合は、中野市が初めての経験だと思う。小中併設の学校、挑戦する場なのかなと。言ってみればこの方針に従って中身についてより良いものをつくっていききたいなと思っています。地元の皆さんの様々な意見があろうかと思いますが、今まさにそこで学んでいる子ども達を優先に考えていきたい。別の角度から踏み込まないといけない課題だと思います。

(小嶋教育長)

豊田地域の記録をお読みいただければと思いますが、小中併設のメリットデメリット、統合した後どういった子どもたちを育てていくのかということに関係してくるわけです。4つの専門部会でどこが先行するのか、この部分がというところがあるわけなのですが、教育部会というところで、教職員が圧倒的に関わるわけです。多岐にわたる中身、工夫、クリエイティブ、創造こういったものを学校運営の教育課程のなかでどう生かすか、そういうところを教育部会で、これから協議していく。委員の皆さんが意見を色々出していたくなかで、通学路のバスの問題や安全とか色々出てくると思う。当初小中一貫ということで近くにあった場合どういったことが連携できるかと模索したわけです。説明不足があったり、ご理解いただくのがまだまだという部分もあって、小中一貫ではなくて小中の連携、何が小学校と中学校でお互いに交流を深めて教育活動を高めていくのかという部分について、教育部会で特にふるさと教育を始めとして見せていただければより良い方向に進んでいくのかと思っています。

(池田市長)

小中一貫というのと連携というのは違いますが、近くにあることでお互いに相乗効果がうまれるというようなところも研究していくといい。私自身は学校が魅力的なものになっていくのかなと、今後、部会の皆さんの活動に期待しています。その他、色々意見が出されておりますけれど、これは未定の部分がかなりあります。一番最適なものを作り上げていけるといいなと思います。教育の中身を具体的に抽出することができればご理解を得られるのではないかと思います。

(青木教育委員長職務代理者)

小学校と中学校がお互いに見える位置で学ぶというのはすごく大事なことだと思いますので、今まで小学校、中学校というふうに分かれてしまっていた。小学生と中学生が同じところで学ぶことで、小学生にとってみれば中学生のお兄さんたちが頑張っている姿を見て尊敬したいなと感じるだろうし、中学生にとってみれば小さい子どもたちを優しい目で見ると、慈しむなど気持ちが創生される、そういう点ですごく楽しみです。小学生も中学生もお互いに成長があるのではないかなということだと思います。それがさらに連携のなかで、より工夫ができる教育の内容が充実していく可能性が見えてくる。色々な部会で話し合っていて、色々な可能性を追求していってもらいたいな、楽しみだなと思います。

(池田市長)

ほかに意見はありますか。

(市川委員)

一年以上にわたって市民説明会を行ってきましたけれども、沢山の保護者の方から我々の提案に対して反対意見というものが沢山聞かれました。そういうものをかみ砕いて聞いてきたということもあるのですが、反対する人達は、自分の子どもあるいは地域の子どものをどういう人間に育てたいのかということが、とても見えにくいという印象を受けました。大前提から言って、子ども達を親や周りの人間が助けてくれる前提でいじめられたらどうするのだ。と言っています。この人たちは子どもの自立を考えているのだろうか、この人たちは100歳200歳300歳まで生き続けて自分の孫を永遠に見続けられる前提で、ものを言っているのか、私には思えない。本当に子どもの事が大好きだったら荒れた海に子どもを放り出して、その海を見事に泳ぎきる力を自分や地域の子どもたちに与えることこそ、生きる力を与えることこそが本当の教育なんじゃないかなと、私が唯一の教育者じゃないのでしょうか、そう見えて仕方ありません。私は会社を経営しているものですから、何人も若い子を自分のところでとった経験があるのですが、うまくいかない子のほとんどが親や保護者から愛情やボタンのかけ違いがある子ども達が沢山私のところに来て、そのほとんどが大成しません。小さい時に我慢の教育がないからです。我慢すること努力することを知りません。勝つ喜びや負ける悔しさを知らないで親がそういうことを取り上げてしまった。すべて勝つことが良いことでもなく、いつまでも負けていることが悪いこと

でもなく、いじめられていることが何がしではなくということで、いじめられていれば助け、困っていれば助け、余裕があったら手を出してあげよう、そういうことが子どものうちからできるようなビジョンを親も子どもも見えるようなことを、地域の人により強く見せてあげれば、今反対のある地域でさえもやがて光が見えてくるのではないか、我々の願っていることが現実になってくるのではないかと思います。

(池田市長)

今、学校の教育に対する期待というのは私が小さい時より変わってきていて先生方も大変になってきていますし、学校教育の根本的なところまで掘り下げないと解決策が見つからない。社会の了解も必要である。市の教育、学校がいいものだなと感じていただけるようにしたい。教育都市、愛情を込めた教育を目指したい。

(永江委員)

豊田地域は、中学校と一緒に敷地内に小学校が入るということで、そのために色々建築したりするので、色々な部会から意見や希望が出たら予算の面でできるだけ応えていただきたいと思うのです。ここもあそこも直すには何千万というお金が消えていくので、地域の住民は一体いくらぐらいかかるのかということも見えてきていない中、そういう意味では心配しています。私ぐらいの年齢だと小学校と中学校が同じ敷地内に入るというのは当たり前なのです。私の場合だと永田小学校、永田中学校、飯山南校の同じ敷地内にあった。我々よりも2、3つ下ぐらいから統合になった。それよりも上の人達は違和感がないのでどうしていけないのか私達にはよく分からない。若い人たちは最初から分かっていたのであれだが確かにメリットデメリットはあるが、そんなにデメリットは感じていないので何十年もやってこなかったが工夫次第ではいいものになるのではないかと思います。先生方にも色々な案を練ってもらって、希望があったらできるだけ応えていただきたいなと思います。

(池田市長)

まずは教育現場そのものが充実していくとよい。お金の問題については、タイトな部分がありますので、そのなかでどうやって要求を満たすことができるのか。頭の中に手順としてあるので、整理しながら進めていきたい。

(長島教育委員長)

統合準備委員会も初めてということで自分のプランを持っている方もおられると思うが、それぞれ公募の委員さん以外は、代表者ということで選出されているわけです。進めていくなかで意見の集約も必要だし、地域代表なら地域の皆さんの意見も必要になってくる。学校の統合では、北部地区は初めての統合校になるわけです。統合してこんなに素晴らしい学校になったというように、みんなの知恵を借りてつくっていただければと思います。今日の議題にもなっているが英語教育や ICT 教育をいち早く統合校に取り入れていただければ

ばなど要望ですが思います。

(池田市長)

私自身も統合して、平岡小学校に皆さんが統合吸収されてやってくるではなくて、新しい学校に皆さんがやってくるというふうにしたいです。中身を大事に議論が進むといい。英語教育やI T C教育などの充実もその一つと考える。支えていただきたいと考えています。

もしなければ統合準備委員会に対する皆様の意見交換は以上にします。よろしくお願ひします。

## 《議題 (2) 中野市教育大綱の進捗状況について 外国語教育の推進について》

(池田市長)

それでは、次に議題2 中野市教育大綱の進捗状況のうち外国語教育の推進について、事務局より説明願ひします。

(小林学校教育課長)

議題2 中野市教育大綱の進捗状況の外国語教育の推進についてお願ひ致します。資料は11ページから資料2をご覧ください。平成28年3月に中野市で策定しました教育大綱のなかで、「ひと、もの、ことと関わりながら学びあい、支え合い未来を切り開くたくましい子どもを育てる」ということを目指す子どもたちの姿として策定を致しました。この目標に向かって5つの柱を掲げているわけですが、資料12から13ページはその5つの柱であります。このうち今回は3の「時代に対応した魅力ある学校教育の推進」の中の外国語教育の推進について、国の動向と現在の市の進捗状況を合わせて説明させていただきたいと思ひます。

まず外国語という捉え方ですが、全国どの地域で教育を受けても一定の水準の教育を受けられるようにするため、文部科学省では学校教育法に基づき各学校でカリキュラムを形成する時の基準を定めています。これを学習指導要領といたひますが、このなかで外国語は原則英語とすると明記されておひります。これに基づきまして、外国語となっておりますが英語教育の推進と捉えて各種事業を進めておひります。12ページの下にありますが外国語教育の推進として①では、小中学校に外国語指導助手を配置②では、外部検定試験を活用③では、中学生海外短期留学制度の導入と具体的な施策を打ち出しておひります。この施策に対しまして現在外国語指導助手については、すでに中学校には4名配置しておひりますが、平成28年度から小学校に新たに2名を配置しておひります。外部検定の試験については、平成29年度から英語検定の受験料の助成、海外短期留学については、平成30年度から実施することとし、英語への関心を高めること、コミュニケーション能力を育成することなどに力を入れて参ります。資料最後の方20ページに今後の予定として実施計画の概要を掲載してござひます。

続きまして資料14ページをお願ひ致します。ここから19ページまでの資料ですが、

今月の14日に文部科学省が学習指導要領の改訂を発表したものでございます。14ページにはこれからの学習は何ができるようになるのか、何を学ぶか、どのように学ぶかという方向性のもとでアクティブラーニングという主体的、対応的な授業をするということになっております。そこで外国語について資料15ページ今回示された学習指導要領改訂に合わせた外国語教育の抜本的教科のイメージ図になりますが、現在中学校で修得している1200の語数が小学校で600から700語数が下におりてきます。中学校卒業までには1600から1800語数と非常にハードルが高くなってきております。16ページについては改訂のスケジュールとなっておりますが平成30年度から先行実施し、平成32年度から小学校、平成33年度から中学校で学習指導要領の改訂が完全実施というスケジュールとなっております。18ページ最後になりますが外国語教育の充実ということの報告が載っておりますが小学校3、4年生で外国語活動、5、6年生で外国語教科とするということになっております。教科にするということは国語や算数と同様でございます。テストもあれば評定もつけるということになってきます。19ページですが年間の授業時数について比較表を載せてございます。こちらは小学校の外国語活動、現在5、6年生でやっているのが3、4年生におりてきます。これが年間35時数、5、6年生については新たに70時数が上乘せされますのでこの分が学校で習う時数が増えるということになります。市内の学校ではこの改訂に伴いまして今後増える授業時数をどう確保したらいいか、今まで教科として教えたことがない小学校の担任の不安など様々な課題が出てきております。またこの問題については今後どのように進めたらいいか学校だけではなく県内の教育委員会でも関心が高い問題となっております。まずは国の動向と市の状況ということで説明をさせていただきました。よろしくお願い致します。

説明は以上でございます。

(池田市長)

今、外国語教育で指しているのは英語教育ということなのですが、学習指導要領の中でいったいどのようなことが課題であるのか。指導方法の問題もあると思う。学習環境を整えていくことは重要と考える。県教育委員会とも強調しながらやっていきたい。英語に慣れ親しむ環境づくりをやっていきたい。

(市川教育委員)

私は学生の時に英語に苦しめられてきたものですから、入口でつまずくとその後の時間がむなしい時間になってきてしまいますので、是非とも理解できる子はよりよく理解できるようにお願いしたいですし、理解の遅い子、時間のかかる子についても同じように頂戴できればと、日本語でない言葉を取得する喜びというのを一人一人が感じ取れるようなそんなお願いができればと思います。

おそらく皆様方には分からない人生を歩んでいる唯一の一人だと思いますので、よく学校の先生に質問するのですが、子どもの時に勉強できましたかと聞くとほとんどの先生

は出来ましたというのです。勉強ができないことを想像したことないと思いますので、そういう子の方が半数以上いるわけでこちらの面にも目を向けていただけると有難いと思います。

ネイティブじゃない外国人とネイティブじゃない日本の英語というのはすごくよく聞こえる。中国人や韓国人などネイティブイングリッシュでやらない人同士の英語というのはすごく良く聞こえるものでして、これでも会話が成り立つのだなと感じたことがあります。これだけでも良かったかなと、新しい子たちは出来るようになると思いますので期待しております。

(池田市長)

コミュニケーション能力の基礎を養うということの違いが分からないのですが、いずれについても小さいうちに語学について慣れ親しんでもらおうと思って、そういった環境を作れるかが重要であります。高校等に行く ESS や ECC のような英語クラブやサークルのようなものがあって活用するのも大切。先生の課題の部分を、どういったことが不安になるか明確な配慮をしていってほしい。

(青木教育委員長職務代理者)

外国語教育をやっておりました。外国語活動と外国語教科とわけて3、4年生その時はゲーム感覚で楽しく嫌にならないように楽しく関われるものなのだと捉えられるように市の方でも先生方にご指導いただいたのですかね、子どもたちが自然にお互いに関わり合いながら子ども達がとても楽しそうにやっていたのを思い出します。そのへんのところはしっかりとやっている。県教委が考えて外国語活動から入っていかうと考えて下さったのだと思います。その時の子どもたちの姿を思い出すだけでも楽しそうにやっていました。難しいことを言わないで楽しくゲームをするという事なので困ったようなことをいう子はいなかったように思います。先生も子どもたちもできるだけ英語でやっていました。難しい会話をするのではなく簡単な会話でやっていました。

(池田市長)

課題としては教科型になって先生も配置とか十分にできない可能性がある。小学生は、担任の先生が教えるのか。そういったところでも不安があるのかと思うので、研修の機会を持っていくことも必要ではないかと考えています。

(青木教育委員長職務代理者)

担任の先生だけでは、難しいかなと思います。

市の方で研修等作っていただいて、充実させてほしいと考えます。

(長島教育委員長)

A L T だけでは、大変になるのではないかと。担任の先生方の考えも違うだろうし調整し

ながら進めていくしかない。

(青木教育委員長職務代理者)

A L Tという形でやっていくと打合せ等が大変。各校一人ぐらいやっていただくと有難いかなと思います。

(池田市長)

今、中野市には、A L Tは何人いますか？

(小林学校教育課長)

小学校には今年度から2名いて巡回しております。大きい学校は時間を長めにとって、午前中はここの学校、午後はここの学校というように平等になるように配置しております。

(小嶋教育長)

委員さん方から英語が嫌にならないように楽しい英語をとということで、新しい教科が入ってきた場合どういう部分で大事かなと思います。私は、課題は2つかなと思います。1つは、小学校の担任の先生が主体となって英語の授業をやるわけですが、特に3、4年生の小さい子ども達が嫌にならないようにするためには、どういった身近な題材を持ってきて子ども達が喜んでしゃべろうとするのか。今の小学校5、6年の外国語活動にも共通するのですが、私もそんなに多く授業を見たわけではないが、英語が上手な先生というのはテンポが良くて身近な題材で、例えば6年生ぐらいになると歴史上の人物を持ってきてフラッシュカードで出して行って、子ども達も反応していくわけです。今回5、6年生は多い時間数になったわけですので単元展開というものをどういう題材で、どのように持っていくのかということで校長会でもそういう話だったが、すでに県教委や文科省でも基本的なパターンを出しています。ただこれについて、市として文科省で出ている基本的な単元展開を当てはめて先生方にこれを基本にやって欲しいと言っても馴染めないのではないか。先生達が現場で工夫して自分達の学校の方法で、子ども達が食いつくような単元展開や題材というものを1年間の準備期間が出てくるわけですが各学年で研究してほしいと校長会では話しております。

もう1つは職員の研修。基本は県教委ではないかと思う。総合教育センターでやる研修というのは限られています。夏休み中に県教委が特設でより多くの先生たちを集めて2、3日ぐらいで仕組んでいただければと思う。それが県教委の役目ではないかと、そのために英語から始まって指導主事の配置をしているし県教委に考えてほしい。担任の先生達も前向きに研修を受ける気持ちになって欲しいなと思います。

もう1つ各学校で壁に突き当たることがあるかと思います。先程事務局で説明があった時間の取り方が小学校に関しては1日6時間、7時間半という子ども達には大変である。6時間でも大変なのです。5時間でおさめるにはどうするのかということで、先行的に平野小学校が時間の取り方を職員会で試験的に決めてくれたということで動きを見てみよう

と思います。

(池田市長)

単なる研修というだけでなく、ロールプレイングなど取り入れて研修も充実させていくことも検討いただきたい。

(小嶋教育長)

A L Tは教室のなかで生きた英語ということで昔から大事な立ち位置で、T T (チームティーチング) でやるのですが、担任とA L Tが二人で掛け合いをやってそれを耳で聞いて、真似して子ども達がやるのでA L Tは大事な位置ですが、担任の力をつけないことにはA L Tにみんな頼ってしまって、A L Tも母国語なので自由に話せるし、担任の方は引っ込んでいて授業の時に任せではないが見ているそのような感じなので、まずは担任が中心になって進める。そしてA L Tは補助なのでそれが逆転すると担任が力がつかないし、異動で学校を移った時に上手くいかないというようなこともありますので、担任が力をつけなければと願っています。

(池田市長)

今いる全員の先生に研修をするというのは、難しい。人材の育成の面でもより多くの人たちが関わる環境づくりを大切にしたい。外国語教育は、非常に大きな問題だと思います。学校を回ってもらうことができるようありとあらゆる手段を講じていきたい。今後、このことについて、話し合う機会があれば、ぜひ協議していきたい。

### 《議題 (3) その他》

(池田市長)

それでは、次に議題3 その他について事務局からありますか。  
ないようであれば、本日予定しました議事は全て終了となります。  
事務局にお返しいたします。

(教育次長)

ありがとうございました。

本日の会議録等につきましては、後日、議事録といたしましてホームページにて公表して参りますのでよろしくお願いしたいと思います。

それでは以上をもちまして第2回中野市総合教育会議を閉会とさせていただきます。ありがとうございました。

(終了：16：20)